

広域防災拠点における現地司令施設の整備について

1 趣旨

本年2月12日政策経営・総務・財政委員会で報告がありました、「新たな横浜市地震防災戦略（原案）」において、本市初の広域防災拠点を整備していくことが位置付けられました。

広域防災拠点は、全国から集まる広域支援部隊のベースキャンプ機能、物資を備蓄し、避難所に届ける物資の流通拠点機能、市域の災害概況をもとに広域支援部隊の現地活動調整等を行う拠点機能を担う、本市の大規模災害時の応急対応に資する拠点として、GREEN×EXPO 2027の跡地へ整備される予定です。

このうち当局では、自衛隊、警察、消防、医療従事者（DMAT等）など、広域支援部隊の応援活動調整を行う拠点機能としての現地司令施設の整備に向けて、検討を進めています。



旧上瀬谷通信施設地区ゾーニング図案
（新たな横浜市地震防災戦略（原案））

2 現地司令施設の概要

(1) 施設整備の目的

- ・ 広域防災拠点に現地司令施設を整備することにより、受援体制を常時確保することで、市災害対策本部の活動方針や被害状況等に基づいた、速やかな活動調整が可能となること。
- ・ 広域支援部隊の活動調整を一元的に行うことにより、被害状況に応じた効率的な部隊の投入が可能となること。



(2) 整備する機能の例

- ・ 市災害対策本部等との映像や情報共有が可能な会議室
- ・ 上瀬谷に集結する各機関のヘリコプターや部隊等の支援機能
- ・ 応援職員の休息、資機材等を補充する後方支援機能
- ・ 24時間365日即応可能な態勢の確保

※平常時は、市民の皆様の防火・防災啓発に向けた取組を検討していきます。



会議室



ヘリ離着陸地帯・
駐機スペース



自家給油施設



資機材保管庫

3 整備スケジュール（予定）

令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
基本設計・実施設計			工事	→	運用開始